

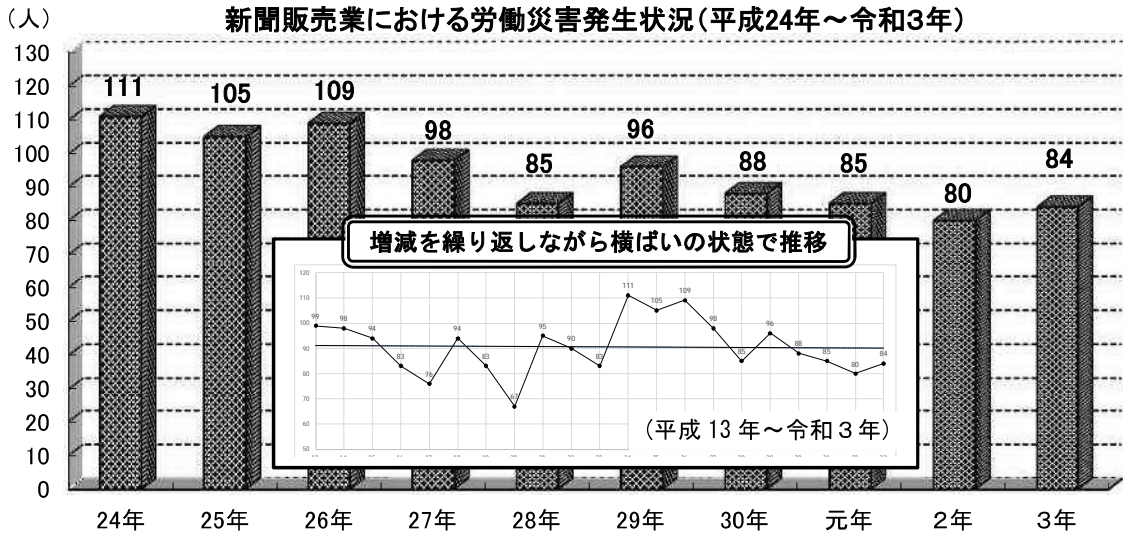
# 新聞販売業における労働災害発生状況

札幌中央労働基準監督署  
札幌東労働基準監督署

## 1 新聞販売業における労働災害の推移

新聞販売業において過去10年間に発生した労働災害（休業4日以上）による被災者数は941人を数え、このうち、死亡者数は4人となっています。

長期的には増減を繰り返しながら、横ばいの状態で推移しています。



年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	令和2年	令和3年	合計
被災者数	111	105	109	98	85	96	88	85	80	84	941
うち死亡	1				1	1				1	4

## 2 新聞販売業における労働災害発生状況（特徴）

### 1. 休業1か月以上の労働災害

新聞販売業においては、休業1か月以上（死亡3人を含む）となった労働者が589人と全体の63%を占めています。

### 2. 労働災害が多発する時季

11月から3月までの晩秋から冬にかけて労働災害が多発しており、687人と全体の73%を占めています。

このうち、転倒が626人、交通事故が116人、階段等からの墜落・転落が88人などとなっています。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
被災者数	150	131	166	33	27	33	32	30	47	52	96	144	941
うち死亡			1						1		1	1	4

### 3. 被災者の年代別

新聞販売業においては、主に高年齢労働者（50～80歳台）の労働者が被災する割合が高く、732人と全体の約78%を占めています。（休業期間も長期化の傾向に）

年代別	10歳台	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳台	80歳台	合計
被災者数	9	34	51	115	187	344	184	17	941
休業1か月以上	2(22%)	12(35%)	25(49%)	68(59%)	119(64%)	233(68%)	120(65%)	10(59%)	63%

新聞販売業において、最も多く発生した労働災害は「転倒」であり、次いで「交通事故」、「墜落・転落」、「動作の反動・無理な動作」などとなっています。

### 1. 転倒……626人

凍結路面によるものが381人、通路や階段など建物が起因した災害が160人、自転車等が42人などとなっています。

休業1か月以上（いわゆる重傷・重体）の災害が404人と、転倒の約65%を占めています。（大半が骨折（404人））

- 季節や天候に応じた滑りにくい履物を使用しましょう
- 足元の安全確認の徹底と急な動作をしないなど安全な歩行を心がけましょう
- 日頃から柔軟体操を行うなど転倒しにくい体づくりを心がけましょう

※ 転倒しないことが重要ですが、これを完全に防ぐ方法はありません。

仮に転倒しても受け身が取れるよう、歩行中は両手をあけておくことを徹底するとともに、転倒した際に頭部を保護するための保護当て付きの帽子（野球帽やニット帽型もあります。）や、肘・膝当てなどの着用を推進しましょう。

### 2. 交通事故……116人（うち死亡3人）

バイク・自動車によるものが104人などとなっています。

休業1か月以上の災害が73人（うち死亡3人）と、交通事故の約63%を占めています。（大半が骨折（67人））

- 交通法規を順守し安全運転を心がけましょう（特に二輪車の運転は慎重に）
- 天候や路面状況に応じた運転を心がけましょう

※ 次頁掲載の「危険情報マップ（新聞配達ヒヤリマップ）」（事故多発地点や運転上注意をしなければならないことを地図上に表記したもの）を作成し、関係する労働者に配付する、また店内に掲示するなど、労働者に対する安全教育を実施しましょう。

### 3. 墜落・転落……88人（うち死亡1人）

階段からの墜落が81人となっています。

休業1か月以上の災害が46人（うち死亡1人）と、墜落・転落の約52%を占めています。（大半が骨折（43人））

※ 労働災害防止ための要点は転倒災害と同様です。

特に新聞を携えた状態で階段を昇降する場合は、姿勢を崩しやすくまた足元が見えにくいこともあるため、足元を確認しながら慎重に昇降するよう心がけましょう。

### 4. 動作の反動・無理な動作……82人

動作の反動・無理な動作は、歩行中に足を捻った、また体を捻った際に腰痛となったなどの災害で、通路や階段等の建物が起因した災害が45人、凍結路面（足を滑らせた際に捻ったなど）が13人、荷の取扱いによるものが5人などとなっています。

休業1か月以上の災害が49人と、動作の反動・無理な動作の約60%を占めています。

※ 労働災害防止ための要点は転倒災害と同様です。

また、新聞の束などの重量物を一度に運搬しようとする、腰痛となるおそれがありますので、小分けする又は台車を使用するなど、安全な作業方法としましょう。

## 危険情報マップ（新聞配達ヒヤリマップ）

交通事故を含む労働災害の原因には、いろいろなケースがありますが、新聞配達中の「うっかり」、「不注意」や、「バイクや自転車などの運転に対する過信」、「だろー運転」などは、事故や災害につながるおそれがあります。

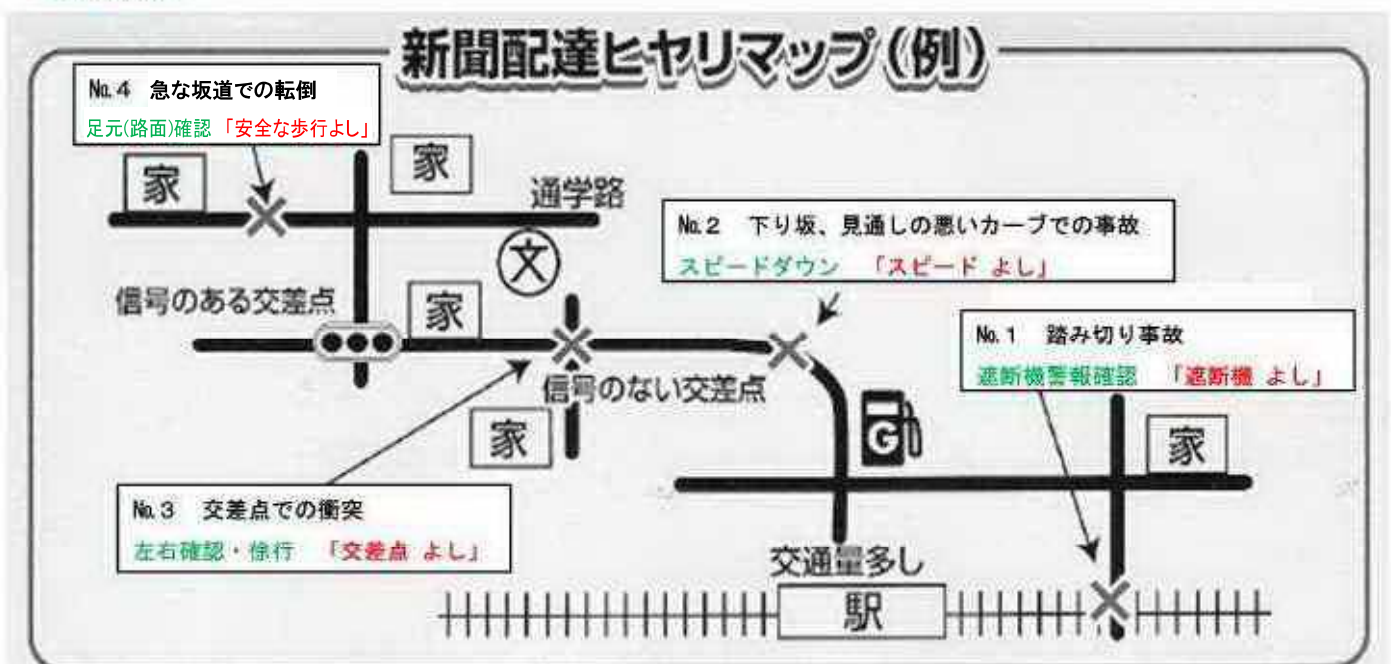
皆さんは、事故や災害にあわなかったとしても、「ヒヤっと」した、「ハっと」したということを経験されていると思いますが、事故や災害を防止するための活動の一つとして、この経験をもとに危険箇所の洗い出しを行い、その対策や注意すべき事項などを事前に確認したうえで、「危険情報マップ（新聞配達ヒヤリマップ）」を作成し、関係する労働者に対して周知や安全教育を行う方法があります。

安全に配達が行えるよう、この危険情報マップを積極的に活用しましょう。

### 【作成手順】

No.	項 目	内 容
①	新聞配達ヒヤリマップ用紙を配付	・配達員全員に配付
②	配達経路を記入	・配達経路は太線で記入 ・脇道は細線で記入 ・信号などの必要な地図記号を記入
③	危険（ヒヤリ）箇所を記入	・危険（ヒヤリ）箇所に×印をつけ、No.で順番を記入 ・危険（ヒヤリ）箇所の内容を簡単に記入
④	対策と確認事項を記入	・対策と確認事項を記入（色別などが適）

### 【作成例】



（注）季節、朝刊及び夕刊等で危険要素、危険場所等も違うので定期的に見直して行くことが必要です。

【新聞配達ヒヤリマップの作成】

# 新聞配達ヒヤリマップ

(経路) 自宅 → 新聞店 → 配達先 (氏名) \_\_\_\_\_  
(所要時間) \_\_\_\_\_ 分 \_\_\_\_\_ km (作成年月日) \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

